

# 植被率（ガボウ北エリア西 06 ブロック）

## <植被率とは>

2m×2m（4㎡）等の正方形の枠を緑化地に設定し、その枠内を植物が覆っている割合を示した数値を「植被率」と言います。枠内が全て植生で覆われていれば100%、植生が全く見られない場合は0%となります。これらの測定ポイントをおよそ5haに一つ設定し、エリア全体の植物の繁茂状況を調べています。当報告書では全体の数値と、その中から代表的な3ポイントを抽出し、経年変化をお伝えしていきます。これにより、当初砂が多く植生が見られなかった場所が、時間とともに植生が回復していく様子が分かります。植被率の向上は、草原への回復に関する最も分かりやすい指標です。植物が裸地を覆うだけでも飛砂が減少し、砂漠化の拡大が防止できます。また、草の構成種の増加は、多様な植生の回復や飼料利用など経済的価値の向上といった側面もあります。

## <エリア全体の平均植被率>

初期値(推定値※) = 5% → 経過値(2008年調査) = 43% → 直近値(2010年調査) = 51%

※ 初期値 = 封柵する直前の、最も土壌が劣化した状態。一斉調査前なので、当時の画像や類似した対象地を参考に設定した数値。

ポイント1（緯度：N42°51.298 経度：E121°57.885）



撮影日：2008年6月  
植被率：5～10%



撮影日：2009年7月  
植被率：0%



撮影日：2010年7月  
植被率：15～20%

考察：砂丘が大きく風で流動するため、最初に砂の固定が必要な場所。現在は植生がわずかしか存在しないが、周囲にも植生が増えつつあるため、次回調査以降は回復が期待できる。

ポイント 2 (緯度 : N42°51.269 経度 : E121°57.865)



撮影日 : 2008 年 6 月

植被率 : 20~25%

撮影日 : 2009 年 7 月

植被率 : 35~40%

撮影日 : 2010 年 7 月

植被率 : 35~40%

考察 : 流動砂丘から半固定の砂丘へ移行中の場所。多年草のサーハオがまばらに見られるが、回復スピードはそれほど速くない。水分条件があまりよくない場所か。

ポイント 3 (緯度 : N42°51.155 経度 : E121°57.962)



撮影日 : 2008 年 6 月

植被率 : 70~75%

撮影日 : 2009 年 7 月

植被率 : 65~70%

撮影日 : 2010 年 7 月

植被率 : 90~95%

考察 : 砂丘間の低地で水分が多く、比較的早期に回復が見込める場所。全体的に丈の短い草がたくさん生えており、順調に植生が回復し、砂が固定されてきている。